



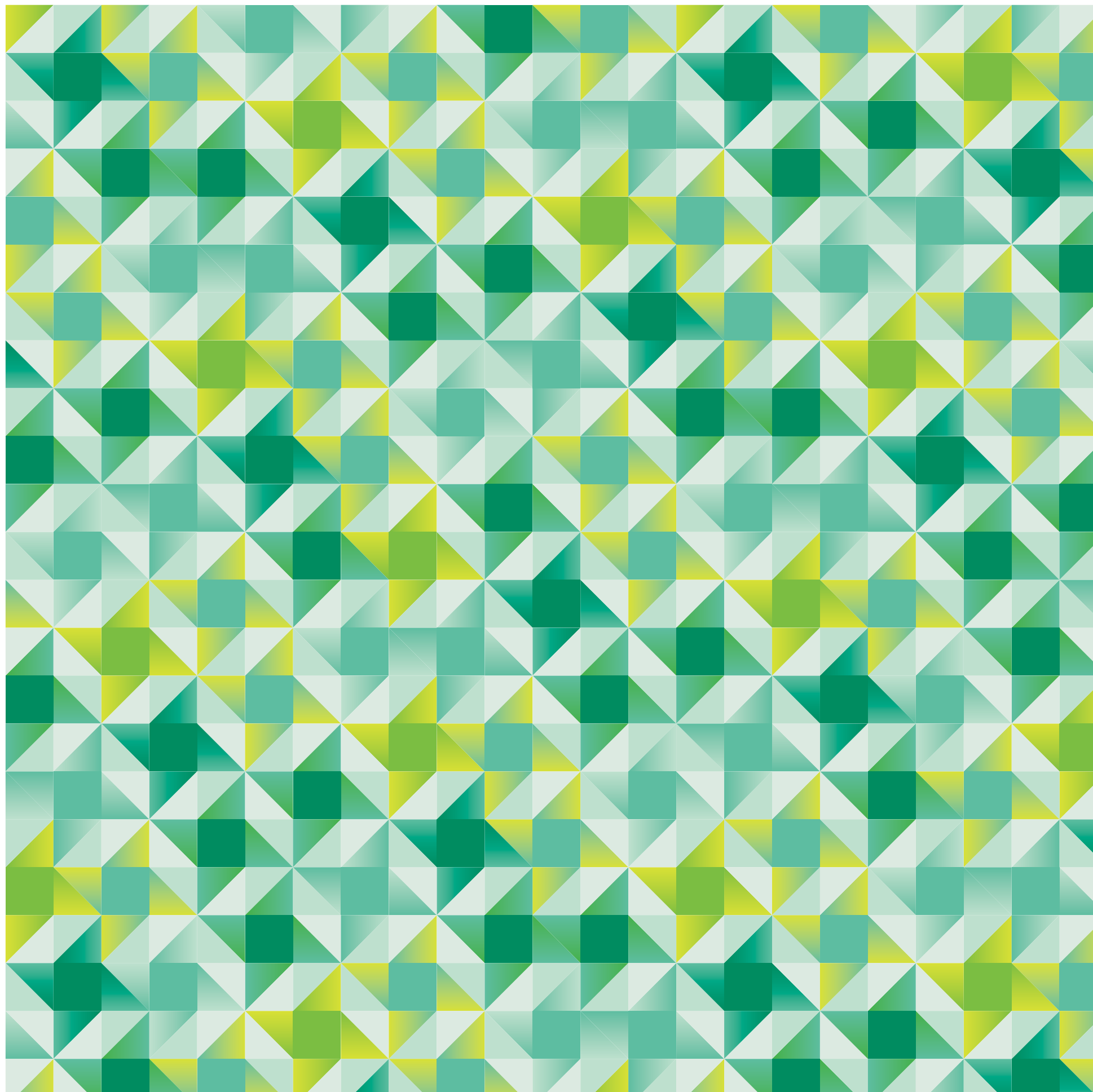
2021年8月発行

茨城大学 広報室

〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1

TEL 029-228-8111 (代表)

WEB <https://www.ibaraki.ac.jp/>



データが語る 茨大の教育の進化 そして新たな「実験」へ

茨城大学 学長 太田寛行

茨城大学コミットメントの開始から4年

「茨城大学コミットメント」―茨城大学は2017年4月、新たな教育の取り組みをこう名付けてスタートしました。そして、初めての「コミットメント・セレモニー」に参加した当時の新入生が、今年(2021年)3月に4年間の学修を終え、卒業しました。

「茨城大学コミットメント」は、本学が全国に先駆けて構築してきた教育の「質保証」のシステムをベースとしています。これは、ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)で定めた5つの茨城大学型基盤学力の達成度を、学生の在学時、卒業時、卒業3年後に確認し、さらに就職先の企業にも調査を行って、その成果を「見える化」しながら、大学全体、学部、学科やコース、教員個人というそれぞれの階層で検証し、授業や教育をより良いものにしていくというものです。

ディプロマ・ポリシーで定めた茨城大学型基盤学力とは、すなわち、「世界の俯瞰的理解」「専門分野の学力」「課題解決能力・コミュニケーション力」「社会人としての姿勢」「地域活性化志向」の5つです(以下、この5つについて、ディプロマ・ポリシーを略した「DP」と記します)。本学では変化の激しいグローバル社会の中でたくましく生きていくための能力・姿勢としてこのDPを定め、学士課程教育における全学部共通の教育目標とし、学生・教職員・地域が協力しながらその確実な習得に取り組むための仕組みを作ったのです。

この仕組みは、文部科学省の補助事業(2016～2019年度)を活用して整備・実践を進めてきたもので、補助期間満了後の文部科学省による評価では最高位の「S」評価を獲得するなど、その成果がしっかりと認められています。

データから見た教育の成果

学生たちには、入学前のセルフ・ラーニング、入学式の日に行われる「コミットメント・セレモニー」、1年次の必修科目である「大学入門ゼミ」などの機会を通じて、茨城大学での学修の目標として

DPを強く意識してもらいます。授業の概要を記したシラバスでも、DPのうちの力が身に付くのが、すべての科目について明記されています。

そして、年次ごとのアンケートでは、現時点でDPがどの程度身に付いたかを聞いています。これらの平均値は、1年次より2年次、2年次より3年次、という形で、どの項目でも年々上昇していることが確認されました。学生たちはDPを目標として意識した上で、着実に成長を実感できているといえます。

さらに興味深いのは、卒業時のDPに対する自己評価結果と、卒業3年後におけるDPの「活用度」を聞いた結果はほぼ相関していたということです。これは、大学で学んだことが社会で役に立っていると多くの学生が実感していることを示すものであり、それだけに大学側の教育責任の重さを痛感しています。

一方、DPについての調査には、学生たちが就職をした企業や自治体の皆様にもご協力いただいています。これは、より客観的な教育成果のエビデンスといえますが、企業等への調査結果と学生調査の結果を見比べると、そこには大きな差は見られませんでした。さらにいうと、企業等の回答結果の方がやや高く評価している傾向が見られます。これは、学生の方が自分自身を厳しく見ているか、あるいは学修達成度に対して謙遜的なのかもしれません。このようなデータは、これまで私たちが認識してこなかった「学修評価の内面意識」を示すものであり、学生の学修達成度の主観性と客観性のチューニングという新たな課題を暗示しているかもしれません。

これまで、5年間にわたってDPの達成度の分析を続けてきました。その経年変化を見ると、全体的な達成度が年を重ねるごとに少しずつ上がっていることが確認できます。その大きな要因の一つが、各教員の教育への取り組み方に変化が起きていることにあると考えています。学生を成長させたいという教員の願いに応えるように、大学として適切なフォーマットとタイミングで各種データを提供することを心がけてきました。その結果、教員がDPの達成度向上を日々の教育実践で強く意識することにつながり、各学部や学科等での教育改善のための議論や研修も活性化しました。DPというブレない軸と適切なデータの共有が、まさに茨城大学の教育の着実な進化につながったと考えています。

学生参画の質保証と安心、 安全なキャンパスライフのために

今後の課題は、学生たちが主体的にデータを活かして自らの学修につなげる、学修者本位の仕組みをつくることです。そのためには、個人単位での学修データの精緻化に加えて、情報インターフェースのデザインも必要となるでしょう。これが成功すれば、学生一人ひとりにとって「自分はこ

れをもっと身に付けたい」ということがより明確になり、あるいは学部生としての4年間に留まらず、大学院や卒業後の主体的な学修へもつながっていくと期待しています。

一方、DPを身に付け、それを確実に自分の力にしておくためには、互いに学びあい、高めあえる仲間とのコミュニティの存在が不可欠です。残念ながら、昨年来の新型コロナウイルス感染症対策による課外活動を含む対面でのコミュニケーション活動の制限は、そうした豊かなコミュニティを育む機会を、学生たちから奪ってしまうことになりました。この影響を私たちは深刻に受け止めています。安全、安心な、そして当たり前のように仲間たちと会い、語り合えるという「キャンパスライフ」が約束されていることは、充実した学修の基盤となります。その確保のため、教職員一同、引き続き最大限の努力をしていきます。

DPの再確認、そして新たな実験

さて、ここまでDPの達成度の向上について説明してきましたが、産業構造や生活スタイルが大きく変化し、ますます不確実性が高まる現代にあって、社会で求められる能力や姿勢を示したDP自体も、適宜見直しを図る必要が生じてくると思います。今年(2021年)10月にスタートする「茨城大学アントレプレナーシップ教育プログラム」は、学生たちが企業等の最先端の課題に触れ、その解決に果敢に取り組むことを通じて、自ら問いを立て、仲間と協力して新たな事業に挑戦する力やマインドを育てるプログラムです。ここでさらに成長する学生たちの新たな姿、あるいは企業や自治体の方々との協働の実践の中から、DPのブラッシュアップにつながる重要なアイデアが生まれてくるのではないのでしょうか。社会の変化に対応してDPを絶えず見直していくことは大学教育の根幹だと思っています。

さらに、DPと真剣に向き合うことは、新たな学士課程教育の展望にもつながります。本学では、既存の5つの学部と連携しながら学士課程教育を行う組織(学部等連携課程実施基本組織)をつくり、企業等での実践的な活動と大学での学修を並行し、深い学びに導く「学働融合」の仕組みを取り入れた学位プログラムの立ち上げを検討しています。これは本学にとってはもちろん、地域にとっても意欲的かつ実験的な取り組みとなると思います。そして、この新たな挑戦にあたって、茨城大学の学生の共通の目標であるDPと、その達成度をしっかりと保証していく本学のシステムとその真摯な実践が、成功の鍵となると考えています。

私たちは、「イバダイ・ビジョン 2030」を掲げ、自律的でレジリエントな地域が基盤となる、持続可能な社会の実現を目指しています。その重要な核ともいえる、本学の教育の着実な取り組みと新たな挑戦について、ぜひご理解いただき、これからもご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

IBADAI VISION 2030

イバダイ・ビジョン 2030

イバダイ・ビジョン 2030

自律的でレジリエントな地域が基盤となる持続可能な社会の実現のために以下の3つを実行します。



世界の俯瞰的理解と多様な専門分野の知の追究



多様な主体を結びつける結節点としての機能強化



持続可能な環境づくりのための先進的行動の展開

そのために、4つの分野で以下のビジョンとアクションを掲げます。

教育

多様な構成員から成るキャンパスにおいて、
社会変化に柔軟に対応できる、
学修者本位の学びにより成長を実感できる教育の追求

地域連携・グローバル化

地域と世界の結節点となり、
市民と連携した活力ある地域社会の形成

研究

研究力の強化と「知」の好循環の確立による
持続可能な社会の構築への寄与

大学運営

強固で柔軟な経営基盤の確立、
社会から信頼される大学運営、教職員の活躍・成長



自律的でレジリエントな地域が基盤となる 持続可能な社会の実現のために

世界中を襲った COVID-19 の拡大は、私たちの健康はもとより、社会のあり方についても多くの課題を投げかけました。日本においては、都市一極集中の脆さが露わとなり、デジタル技術の進展も伴って、社会機能の地方への分散がリスクの軽減と個人と社会の持続可能な発展をもたらし得ることが示唆されました。富とリスクが分散化する社会においては、多様な住民を支えるインフラの持続的発展と産業・文化の振興とをベースとした、自律的でレジリエントな地域社会の実現が不可欠です。

そのような地域社会にあって、茨城大学はどのような役割を果たすべきでしょうか。第一に、世界を俯瞰的に理解して、顕在化していないものも含む住民の願いや課題を捉え、歴史やグローバル規模の課題と関連づけながら、科学的な見地からその解決・実現を図ることです。その営みを導く、世界の俯瞰的理解と多様な専門分野の知の追究が、茨城大学の学生・教職員双方にはまず求められます。

第二に、社会の多様な主体を結びつける結節点であることです。特定の私的利益ではなく真理の探究を価値基盤とする大学は、住民、自治体、企業、団体など社会のさまざまな主体と、より良い社会を創るために、調和の取れた良好な関係を切り結ぶことができます。その立場を最大限生かし、社会の結節点としての機能を追究します。さらには、自律的・協働的・継続的に学び、成長する市民が、それぞれの生活の場で結節点となることで、ネットワークがさらに広がっていくことを期待します。

第三に、持続可能な環境づくりのために行動することです。茨城大学はサステイナビリティ学の研究・教育において長年の実績を有しています。SDGs（持続的な開発目標）やカーボンニュートラルが国際協調による共通の目標として掲げられる中、茨城を核とした地域の豊かなリソースを最大限生かしながら、本学の強みとなる研究分野を育て、その成果を社会に還元・実装することによって、地球・地域社会の持続可能な発展を具体的に図ります。

これらの役割を果たすべく、私たちは、2030年にこうありたいという姿について、教職員や学生との議論を経て、4つのビジョンと12のアクションで構成する「イバダイ・ビジョン2030」としてまとめました。このビジョンと、そこで展望されている社会像を、多様なステークホルダーと共有し、共感と参加に基づく開かれた大学運営を進めていきます。

なお、私たちは社会の変化を捉えながら、このビジョンとアクションについても、進捗や社会的意義を検証し、ステークホルダーとの真摯な議論によって、逐次ブラッシュアップしていきます。

2021年3月 茨城大学



◀ イバダイ・ビジョン2030 紹介WEBサイト



教育

多様な構成員から成るキャンパスにおいて、社会変化に柔軟に対応できる、
学修者本位の学びにより成長を実感できる教育の追求

Action 1 社会・世界に開かれたキャンパスを構築し、 多様な価値観の交差により新たな価値観が生み出される学びの場を提供します。

社会を構成する多様な人々を包含し、多様な意見を出し合い課題解決策を考え、実行することが、持続可能な地域や社会づくりを考えるに当たっては必要です。そうした場面で中心的な役割を果たせる人を育てる大学であるためには、多様な学生、教職員からなるキャンパスを意識的に形成する必要があります。そのために、これまで国立大学の使命の一つとされてきた「経済状況によらず高等教育を受ける機会の保証」とどまらず、SDGsの目標4「すべての人々に包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を推進する」ことを大学運営の根幹に据え、留学生や社会人を含めた多様な学生の積極的な受け入れ、多様性を支えられる教職員の採用・FD・SD、キャンパス環境の整備、学生支援を行います。

Action 2 社会の変化・ニーズに柔軟に対応しながら、学修者の個性と可能性を伸ばし、挑戦を支え、成長を実感できる 教育を提供し続けられるシステムを構築し、進展するデジタル技術を活用して教育方法を改善していきます。

地域・社会の課題を見だし、分析し、解決策を考える際には、多様な学問分野からの、多様な方法でのアプローチが必要です。いま大学に求められているのは、多様な科学的知見を活かし、かつ文理横断や異分野融合的な視点を持って、多様化・複雑化する課題に他者と協働して課題解決にチャレンジできる人を育てることです。例えば、SDGsやカーボンニュートラルという目標に向けて、データを読み解き、さらなるデジタル化の進展も前提に、どういう手立てが必要かつ効果的かを考えられる人を育てることです。そのためには、「広い視野」と「深い専門性」、「一定のリテラシー」が必要です。そこで普遍的な教養とも言える知見とともに、現代の社会的ニーズや課題に応じた教育コンテンツを提供します。また、学位プログラム制やメジャー・サブメジャー制といった仕組みを用いて学生のニーズや社会変化に対応できる柔軟性のある教育システムを築くとともに、「4階層質保証システム」を活用して教育の質保証を実質化させていきます。

高校までの学びの中でも身に付けてきた主体性をさらに活かして、工業県・農業県である茨城地域や社会のフィールドで、主体的な実践を教育要素として一層重視していきます。さらに、卒業後も社会の変化に対応した学びを大学の内外で続けられる人材を育てます。

Action 3 初等・中等教育からの「連続性のある学び」を展開するとともに、 リカレント教育による「生涯にわたる学び」を提供します。

現在の教育体系ではキャリア教育が重視されており、初等教育段階から取組が行われています。自らのキャリアを意識し、大学や学部・学科を選択して入学してくる学生に対し、希望の実現を支援する教育を行います。また、「中高大接続」という考えの下で、附属学校や地域の学校とキャリア形成教育に関する情報を共有し、連携することで、大学まで連続性のある教育を展開していきます。さらに、卒業生や地域の人々にとって具体的な課題解決の方法探求や教養・市民力向上につながるように、リカレント教育のシステムの充実を図ります。

研究

研究力の強化と「知」の好循環の確立による持続可能な社会の構築への寄与

Action 4 研究マネジメントと研究環境の改善、教員の自由な発想に基づく研究と分野横断・ 融合的な研究により、総合大学として研究力の強化を図ります。

2021年現在、日本の大学の研究力低下が指摘されています。学術的な研究力向上のためには、何よりも教員の自由な発想に基づく研究活動が保障され、恒常的に活動が行われ、成果が公表されることが必要です。研究マネジメントと研究環境の改善を行いながら、研究活動の活性化を行います。また、多様な学問分野の研究者を備えた総合大学としての強みを活かし、分野横断的あるいは融合的な研究の組織化も進めます。こうした取組を進めることで、学術的な新たな「知」の創造に寄与します。

Action 5 産業界や地域社会との連携を強化し、SDGsやカーボンニュートラルを目指す 社会の課題解決に向けた研究や研究成果の社会還元を推進します。

学術的な研究とともに、SDGsやカーボンニュートラルを目指している社会のニーズに応えられるような実践的な研究にも取り組み、研究成果の社会への還元に努め、人々の生活向上に寄与していると実感してもらえるような取組を進めます。そのために、産業界や地域社会との連携推進体制の強化、共同研究や受託研究といった形態での研究を推進します。これにより、「研究成果を社会へ還元し、社会からの賛同と財政支援を得て、さらに研究を進める」という正のスパイラルとなる“社会と大学の関係”の実現を目指します。

Action 6 環境科学分野と量子線科学分野をはじめとする特色ある研究分野において、 さらに世界水準の研究拠点となる取組を進めます。

本学はこれまで、環境科学分野と量子線科学分野を特色ある重点分野と位置付けて、研究活動を進めてきました。研究拠点となりつつあるこの2つの分野の活動を強めながら、研究成果をあげていくことで、さらに世界水準の研究拠点となるよう努めます。また、新たな組織的研究の芽を育て、重点化・拠点化できる研究を見だし、世界水準に高める方策を講じます。

地域連携・グローバル化

地域と世界の結節点となり、市民と連携した活力ある地域社会の形成

Action 7 研究の知見と構成員の行動力を活かし、地域の住民と共に社会の持続的発展のための活動に取り組みます。

本学は地方国立大学として、これまで「地(知)の拠点」としての役割を果たしてきました。茨城県内の地域社会との強力なネットワークを有することが本学の強みです。少子化・高齢化、人口減少が進む一方、多様な人が住み働く地域社会を持続可能とするために、まちづくりや防災等で、産官にとどまらず、課題の解決を試みようとする住民や様々な団体等と、学生を含む大学構成員をつなぐこと、研究から得られた知見を提供することを通じて、地域創生に寄与していくとともに、地域の人々が教育に参画できる機会を拡充します。

Action 8 ICTも存分に活用しながら海外の多様な研究者や学生との交流拠点としての機能強化を図り、 教育研究の国際化を進めます。

大学は研究者や学生を一定期間外国に送り出すと同時に、外国から留学生や研究者を地域に迎える窓口となっています。外国に出た学生は異文化体験をもとに地域で活躍することになります。外国から来た学生が、卒業後地域で住み働くチャンスも増えていくことも想定されます。今後さらに進展するであろうICTも存分に活用しながら、多様な国の大学や研究機関との連携を強化し、教育研究両面での国際交流拠点、地域と世界をつなぐ結節点としての役割を果たしていきます。

大学運営

強固で柔軟な経営基盤の確立、社会から信頼される大学運営、教職員の活躍・成長

Action 9 強固な経営基盤確立、社会の変化に対応した組織編成と戦略的な資源配分、 デジタル技術の活用を通じて、持続可能な運営を行います。 また、国内外の機関との機能的連携を強化し、それぞれが強みを活かしながら相互補完できる態勢を作ります。

本ビジョンを達成するための中長期的な経営計画、人事計画を策定し、持続可能となる経営基盤を確立します。また、社会の変化に速やかに対応し、必要な資源を適確に投入でき、効果を上げられるような柔軟性のある組織とするとともに、デジタル技術を活用した業務改善も行っていきます。さらに、限られた組織資源を最大限に活かしながら本学の強みを強化しつつ、社会が求める教育コンテンツを提供し続け、研究力の向上を図るため、国内外の大学・研究機関・企業等との機能的・組織的連携を強化し、相互補完態勢を築く取組を進めます。

Action 10 情報公開、多様なステークホルダーのエンゲージメント向上、大学ブランディングを 一体的な目標として捉え、大学内外での戦略的・先駆的なコミュニケーションの強化に努め、 地域・社会に信頼される大学運営を行います。

本ビジョンを策定し、アクションを確実に実行していく上で、透明な大学運営に必要な情報公開、学内外のステークホルダーのエンゲージメント向上及び大学運営への積極的な参加、大学のブランディングを一体的な目標として捉え、そのための学内外でのコミュニケーション機能を組織的に強化します。また、そうした視点に立った高等教育の戦略的なコミュニケーションの在り方を先駆的に確立し、その知見を積極的に社会と共有します。また、北関東圏の高等教育機関や各界と意見交換を行いながら、高等教育の在り方を継続的に考える場を構築します。

Action 11 教育・研究・管理運営の全般について恒常的な点検・評価及び改善(内部質保証)を行います。

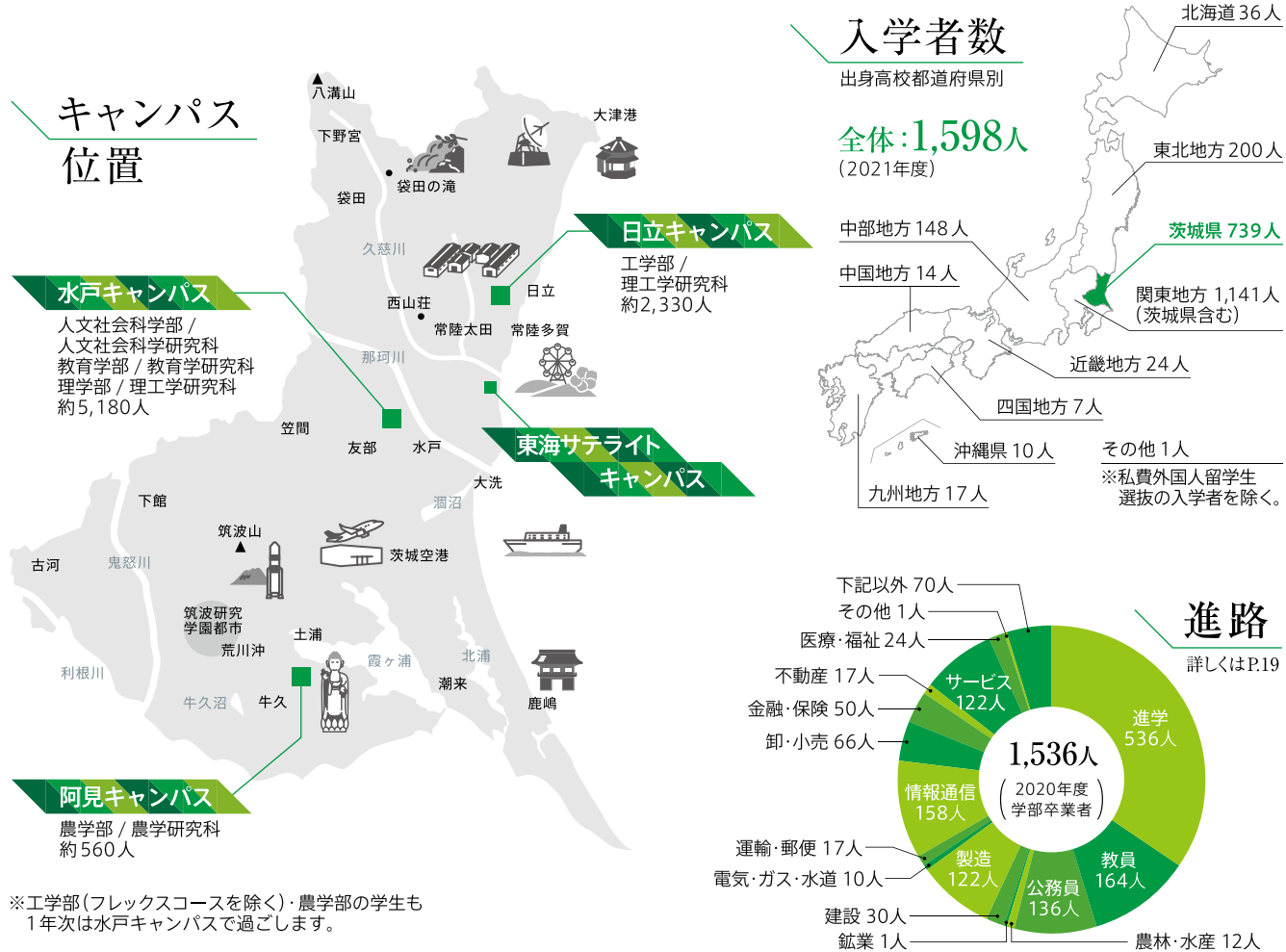
教育・研究・管理運営全般について本ビジョンの達成に向けて、法律で定められている点検評価(レビュー)だけでなく、データに基づいた目標・計画等の達成度を恒常的に共有・点検(モニタリング)し、業務の改善(レビューとモニタリングによる内部質保証)を行います。

Action 12 ワーク・ライフ・バランスの推進、適切な人事評価と処遇への反映、処遇の全体的向上、 教職員の交流活性化と協働により、教職員が意欲を持って働き、活躍・成長できる組織となります。

ワーク・ライフ・バランスを進め、業績評価と結果の処遇への反映を適切に実施し、処遇を全体的に向上させることで、教職員がモチベーションを維持しながら活躍・成長できる組織としていきます。また、教職員間の交流と協働を仕事の進め方の基本に据え、組織全体でパフォーマンス向上を図ります。

自律的でレジリエントな地域が基盤となる 持続可能な社会の実現のために

茨城大学は地方国立総合大学として、教育・研究の両面で世界の俯瞰的な理解に基づく知の探究を進め、持続可能な地域・社会の実現をめざします。そのために、多様な主体を結びつける結節点としての役割を果たし、サステナビリティ学などの強みを社会に還元・実装していきます。

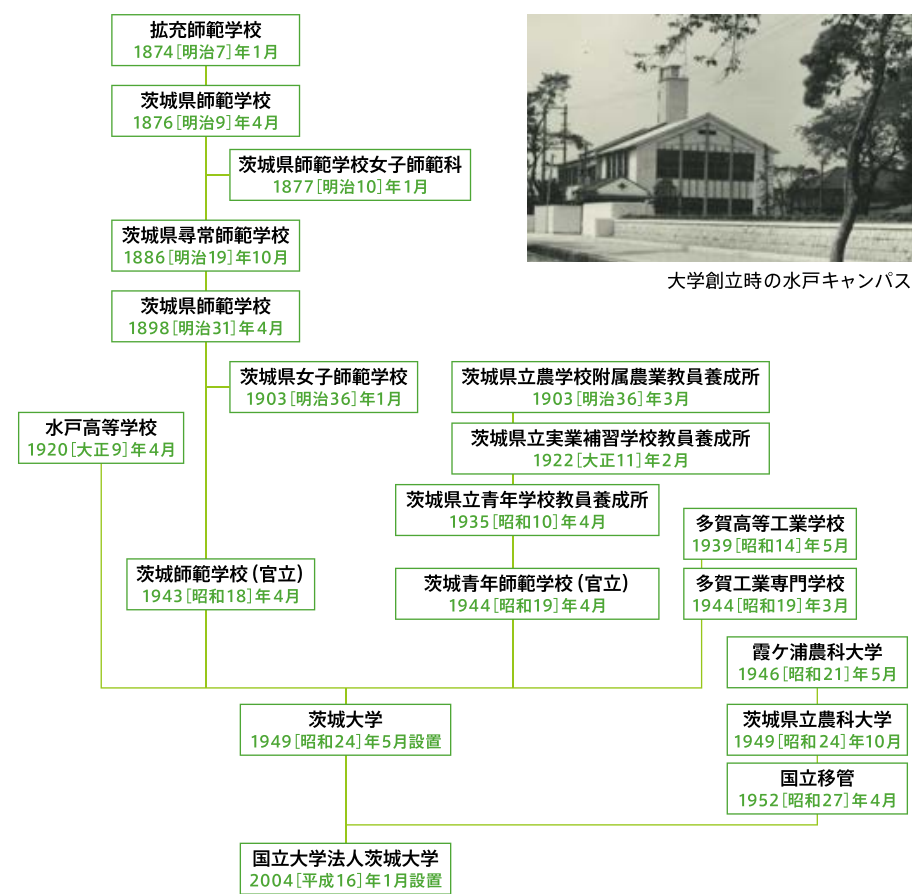


※工学部(フレックスコースを除く)・農学部の学生も1年次は水戸キャンパスで過ごします。



茨城大学の沿革

茨城大学は、1949年、旧制水戸高等学校、茨城師範学校、茨城青年師範学校、多賀工業専門学校を統合した新制大学として産声をあげました。1952年には茨城県立農科大学が合流して農学部となり、現在の骨格ができました。さらに源流を辿れば、約150年前の拡充師範学校がルーツとなります。

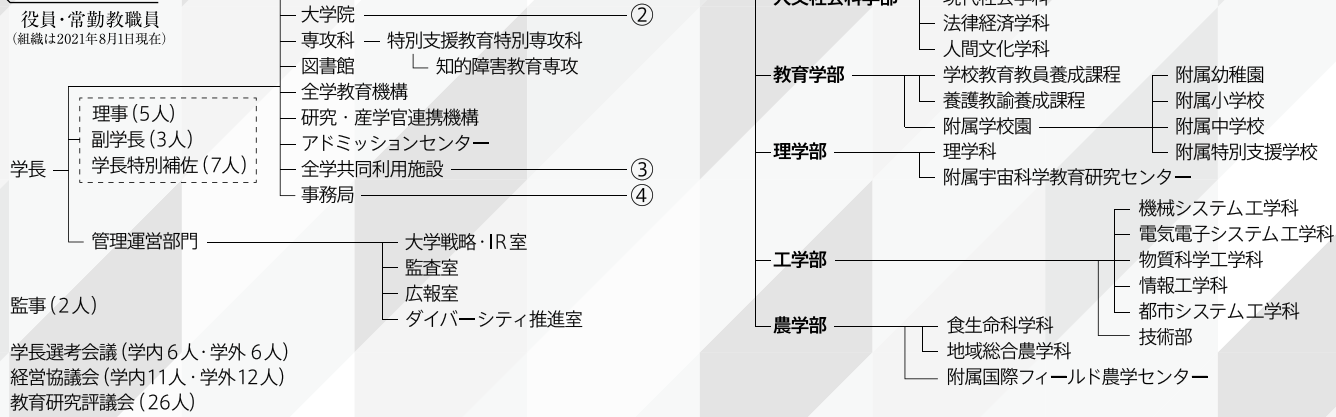


大学創立時の水戸キャンパス

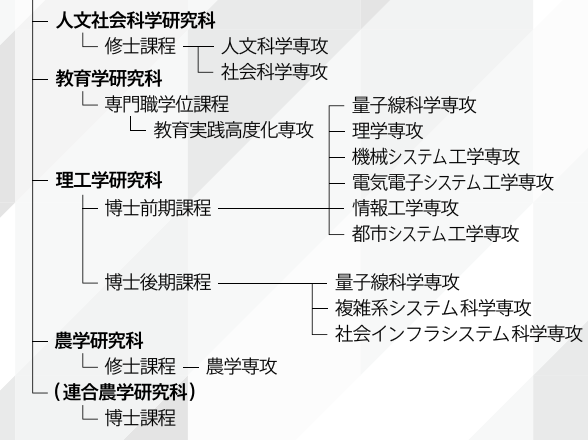
目次

概要・目次	7
教育	9
学部・大学院・専攻科	11
研究	13
地域連携	15
グローバル交流	17
就職状況	19
大学運営	20
キャンパスマップ 水戸	21
キャンパスマップ 日立	23
キャンパスマップ 阿見	25
その他の関連施設	27
キャンパススケジュール	29
茨城大学基金	30

組織図



②大学院



茨城大学の教育

主体的な学びを促すカリキュラムとデータを学修指導に活かして、
これからの社会に必要な茨城大学型基盤学力の習得を保証

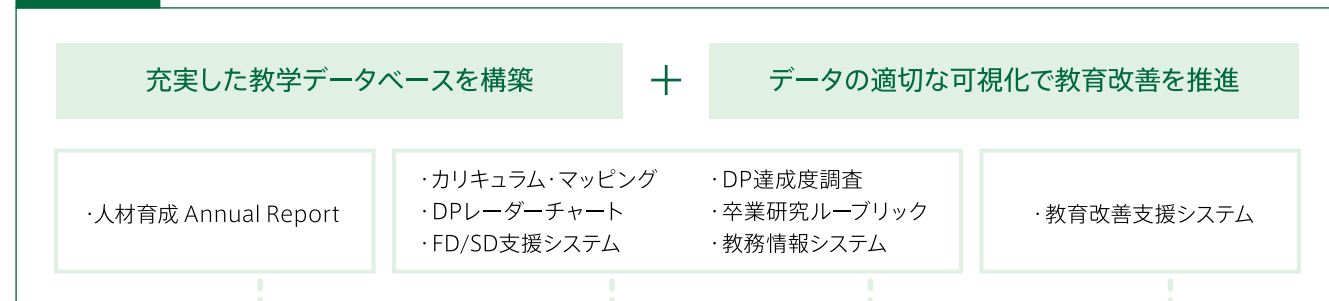
茨城大学型基盤学力 Diploma Policy

- 世界の俯瞰的理解
- 専門分野の学力
- 課題解決能力・コミュニケーション力
- 社会人としての姿勢
- 地域活性化志向

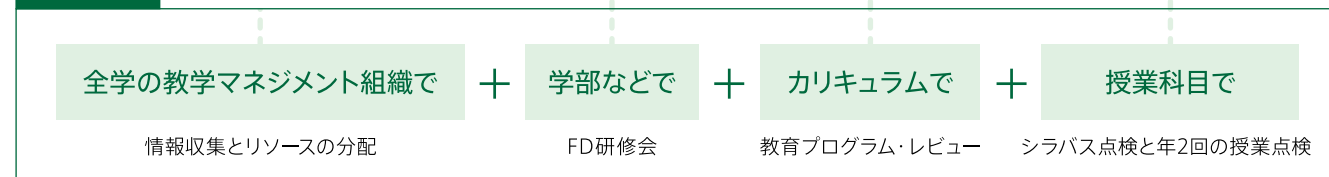
茨城大学では「変化の激しい21世紀において社会の変化に主体的に対応し、自らの将来を切り拓くことができる総合的人間力を育成すること」を教育目標に掲げ、すべての学生が卒業までに身につけるべき5つの「茨城大学型基盤学力」をディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）として定めています。各カリキュラムは、これらの基盤学力を確実に習得できるよう設計されています。さらに、入学時～卒業時の学生調査、卒業後の追跡調査、企業へのアンケート等によって、在学生および卒業生のディプロマ・ポリシーの達成度を把握して、授業やカリキュラムの改善に役立てており、その成果は年々着実に上がっています。また、学生生活の状況も継続的に調査し、充実した大学生活が送れるように支援しています。

茨城大学の教育と質保証

STEP1 学修成果の可視化と共有



STEP2 4階層質保証システム



STEP3 地域協働モデル



pick up

全学共通の特徴的な基盤科目

大学入門ゼミ

主体的な学びや資料検索の方法、レポート作成のポイントなど、高校までとは異なる大学での学修スタイルを学ぶ1年次の必修科目です。

茨城学

茨城が抱える課題について、自治体や地元企業など多様な講師による講義とディスカッションを通して、地域への理解を深めます。

プラクティカル・イングリッシュ

アクティブ・ラーニング形式で実践的な英語力を身につけます。1年次と3年次にはTOEIC受検で習得度を測ります。

ライフデザイン

大学時代に身につけておくべき多様な価値観、社会の常識、マナーなどを学び、自らのキャリアに思いを巡らせます。

授業外の学びや活動も積極的に支援

茨城大学では、サークルやボランティアなど授業外での活動も、茨城大学型基盤学力をさらに高めるものとして積極的に支援をしています。また経済的な困難や障害といった学生が抱える課題に応え、誰もが前向きに学べるための環境整備を進めています。



課外活動

サークルなどの課外活動をサポートする施設を各キャンパスに設けています。多くの学生が大会などで活躍中です。

経済的な支援

経済的な困難を抱える学生たちも安心した環境で学修に取り組めるよう、学費の免除や各種奨学金のほか、さまざまな支援制度を用意しています。それらの支援には、茨城大学基金に寄せられた寄附金も活用しています。

入学科・授業料減免

国による高等教育の修学支援新制度および本学独自の制度によって、入学科や授業料を減免する支援を行っています。

成績優秀学生学費免除

学業成績が優れた学部生および大学院修士課程（博士前期課程）学生を表彰し、授業料の一部を免除しています。

キャリア支援

カウンセラーによる相談対応やセミナー等の開催を通じて学生のキャリア形成をサポートします。

グローバル教育

海外協定校等とのネットワークを通じて、学生の留学を支援します。また、留学生の学修をサポートします。

心身の健康サポート

保健管理センターでは医師や看護師、カウンセラーが心やからだの相談に対応します。

障害のある学生の支援

学生同士による支援（ピアサポート）などを通じて、ひとりひとりのニーズに応じた支援体制を整備しています。

check!



コミットメントセレモニー

茨城大学コミットメント ー入学式の日に交わす教育の約束

茨城大学では、ディプロマ・ポリシーで定めた5つの基盤学力と教育の仕組みを理解してもらいイベントとして、入学式の日「コミットメントセレモニー」を行っています。「茨城大学コミットメント」は、学生・教職員・地域のパートナーシップによって必要な力を身につけるための教育の約束です。新入生には「コミットメントブック」が配られ、式場の全員で記念撮影をして、新しいキャンパスライフを迎えることになります。

●WEB / <https://www.ibaraki.ac.jp/commit/> ●twitter / @IBADAI_commit

学部

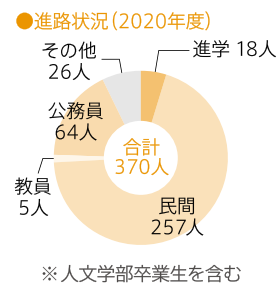
全学のディプロマ・ポリシーに応じて各学部とも目標を掲げ、コースやカリキュラムを充実させています



人文社会科学部 水戸キャンパス

主専攻分野の「メジャー」に加えて異分野の「サブメジャー」(副専攻)も選ぶ制度により、社会の課題を把握し、解決する高い能力と俯瞰的な視野を育てます。

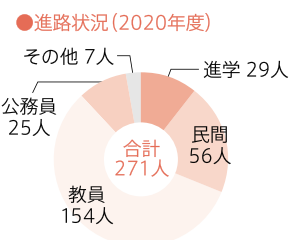
[現代社会学科] メディア文化メジャー／国際・地域共創メジャー
[法律経済学科] 法学メジャー／経済学・経営学メジャー
[人間文化学科] 文芸・思想メジャー／歴史・考古学メジャー／心理・人間科学メジャー



教育学部 水戸キャンパス

複雑化する教育問題に対処するため、専門的知識と広い視野を伴う実践的指導力をもった教員を育成。地域と連携し、教育実習以外にも学校現場で学ぶ機会を充実させています。

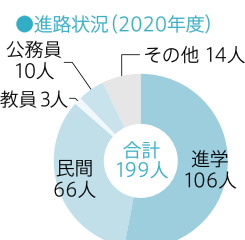
[学校教育教員養成課程] 教育実践科学コース／教科教育コース／特別支援教育コース
[養護教諭養成課程]



理学部 水戸キャンパス

従来の学科の枠組みを取り払った「1学科6コース制」により、社会のさまざまな分野で活躍できる、高い専門知識と問題解決能力をもった理学のスペシャリストを輩出しています。

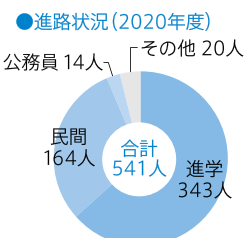
[理学科] 数学・情報数理コース／物理学コース／化学コース／生物科学コース／地球環境科学コース／学際理学コース



工学部 日立キャンパス (1年次(フレックスコースを除く)は水戸キャンパス)

AIやビッグデータなどの情報教育を重視し、大学院を含めた6年一貫の教育を念頭に、新たな社会の基盤づくりを担う高度技術者・研究者を育てます。

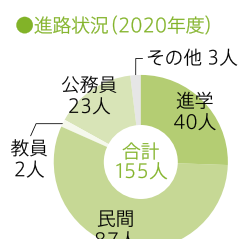
[機械システム工学科] **[電気電子システム工学科]**
[物質科学工学科] **[情報工学科]** **[都市システム工学科]**
[機械システム工学科(フレックスコース)]



農学部 阿見キャンパス (1年次は水戸キャンパス)

食・農業の国際化・高度化が急速に進む中、世界と地域で活躍できる実務型農学系人材の育成をめざし、生産・加工の国際認証などにも対応した新たな農学教育に取り組んでいます。

[食生命科学科] 国際食産業科学コース／バイオサイエンスコース
[地域総合農学科] 農業科学コース／地域共生コース



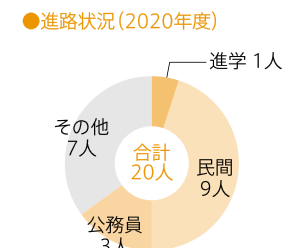
大学院・専攻科

社会をリードする高度な専門職業人や研究者を育てます



人文社会科学研究科 水戸キャンパス

※2021年度改組



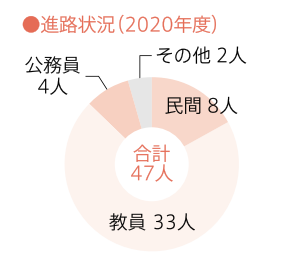
修士課程
[人文科学専攻] **[社会科学専攻]**

2021年度に改組し、人文科学専攻に公認心理師コースを新設。学部からの6年一貫教育で公認心理師の受験資格取得が可能になりました。



教育学研究科 水戸キャンパス

※2021年度改組

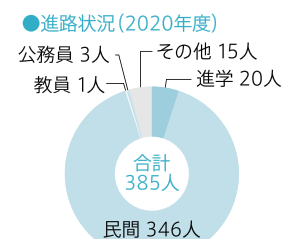


専門職学位課程
[教育実践高度化専攻]

2021年度に改組し、現代的な教育課題に実践的に対応できる力を育てることを目的とし6コース制の教職大学院に一本化しました。



理工学研究科 水戸キャンパス 日立キャンパス 東海サテライトキャンパス

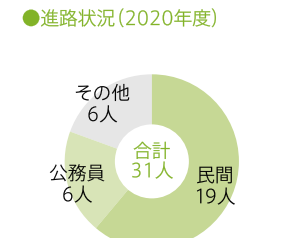


博士前期課程
[量子線科学専攻] **[理学専攻]** **[機械システム工学専攻]**
[電気電子システム工学専攻] **[情報工学専攻]** **[都市システム工学専攻]**
 博士後期課程
[量子線科学専攻] **[複雑系システム科学専攻]** **[社会インフラシステム科学専攻]**

量子線科学専攻はJ-PARCなどの機関と連携し全国的にもユニークな量子線の科学・技術の総合的教育を行っています。



農学研究科 阿見キャンパス



修士課程
[農学専攻]

英語開講の科目だけで修了できるアジア展開農学コースには、アジア各国から留学生が集まっています。

連合農学研究科 阿見キャンパス

[生物生産科学専攻] **[応用生命科学専攻]**
[環境資源共生科学専攻] **[農業環境工学専攻]**
[農林共生社会科学専攻]

茨城大学、宇都宮大学、東京農工大学の農学研究科修士課程が連合して、博士課程(3年)の教育・研究にあたる研究科です。

特別支援教育特別専攻科 水戸キャンパス

[知的障害教育専攻] 特別支援学校教諭一種免許状取得コース

現職教員や教員資格保有者などを対象として、知的障害児の教育を中心とした特別支援教育を担当できる教員を養成しています。

茨城大学の研究

研究力の強化と「知」の循環で持続可能な社会を構築

茨城大学では、2018年に設立した研究・産学官連携機構(iRIC:Ibaraki University Research and Innovation Center)を司令塔として、研究マネジメントと産学官連携を推進しており、東京を除く関東地方の大学で、同一県内企業等との共同研究件数が常にトップクラスを誇っています。農業・工業の豊かな産業構造に恵まれてきた茨城県の地域資源を最大限活かしながら、もともとの強みである気候変動分野などの研究力と結びつけて、持続可能な社会の構築をめざします。

特徴的な研究領域



地球・地域の持続的な環境共創に貢献する研究拠点

2020年4月に発足した地球・地域環境共創機構(GLEC)では、本学における気候変動・環境科学研究の蓄積を基盤として、地球・地域の環境を対象にしたフィールド科学から予測・政策科学を含む総合的な研究を推進しています。また、従来の強みである気候変動適応策の研究・社会実践に加えて、二酸化炭素の除去技術や水素エネルギーの研究といった、カーボン・ニュートラルを見据えた緩和策についても産学官連携での取り組みを推進しています。



大規模施設と連携した量子線科学のパイオニア研究

茨城大学では、世界有数の大強度陽子加速器施設 J-PARC (茨城県東海村) に隣接する、東海サテライトキャンパスを開設。全国的にもユニークな大学院理工学研究科量子線科学専攻を核として、中性子・X線・ミューオンといった量子線を活かしたイノベーション創出と国際拠点構築をめざし、研究と人材育成を進めています。

pick up

地域課題への組織的アプローチ 地域活性化、地域史の研究

原子力発電所がある東海村や中山間地域活性化等の地域課題をテーマに組織的な研究・発信を進めます。また、被災資料のレスキューなどの地域と連携した活動により、地域史研究を推進しています。



教科・領域を横断した教育学研究

総合学習に関する研究、神経・生理学的教育、環境教育等の強みを活かし、教育の現代的課題の解決に寄与する教科・領域横断的な研究に重点をおいています。



直径32mの電波望遠鏡を用いた 第一線の宇宙科学研究

高萩市・日立市に設置されている電波望遠鏡を用いた研究や、次世代ガンマ線天文台の国際計画にも継続的に関わり、国立天文台や他大学との協力のもと、宇宙科学の国際観測・研究ネットワークの重要な一翼を担います。



地域産業イノベーションの展開

地域産業イノベーションに貢献するため、地域の研究機関や企業との連携を維持し、金属材料解析・プロセス開発等工学分野に関する研究を展開します。



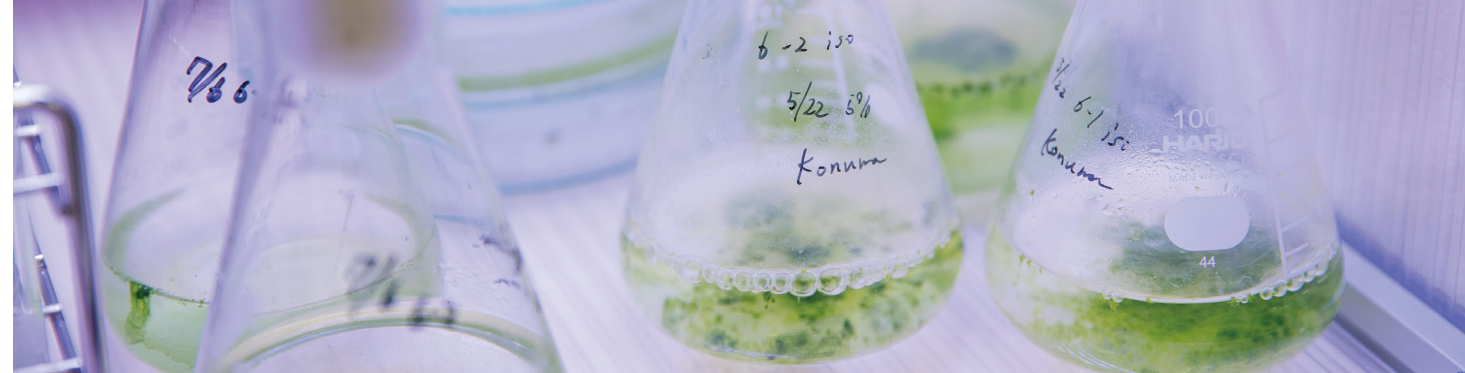
フードイノベーション 安全安心な食を国内外に

2018年にGAPを取得した国際フィールド農学センター、2019年に完成したフードイノベーション棟などを拠点に、農業生産から食品流通、健康科学にまで至る総合的な食生命科学の分野を確立します。



北茨城・五浦を拠点とした 茨城県北の美術・文化の発信

本学が所有する六角堂を含む岡倉天心遺蹟の保存と活用を一層促進し、おもに茨城県北部を拠点とした美術・文化の研究を通じた地域活性化に貢献します。



研究・産学官連携機構による戦略的な研究支援体制の構築

研究・産学官連携機構(iRIC)では、研究支援の専門職(URA、コーディネーター)を配置し、研究戦略および知的財産運用方針の策定や論文投稿、機密管理などに関する研修の企画を実施しています。さらに、他機関と協力した産学連携のためのネットワーク構築といった取り組みを進め、戦略的な研究支援体制を強化しています。

多様な研究支援体制

研究の加速や新たな展開をめざし、URAや産学連携CDなどの専門人材による伴走支援のほか、研究資金とURAによる支援を合わせたResearch Boosterや英文論文投稿支援など、さまざまな制度を設けています。また、学内外の研究者や異セクター間の連携を加速させるアオゾラ連携プロジェクトを運営し「茨大100人論文」、「iiCafe」などの企画を実施しています。



競争的資金の獲得支援

科学研究費(科研費)やその他の府省庁系資金について、申請に向けた情報収集や申請内容に関するディスカッション、関係各機関との意見調整、申請書作成支援などを行い、研究のための競争的資金の獲得をサポートしています。そうした取り組みが、本学の外部資金獲得や応募数の増加につながっています。



産学連携

学外機関と連携した研究シーズの発信や、提案・相談事業を通じて本学の研究リソースを活かし、企業のニーズを汲んだ共同研究を推進しています。また、茨城県北産業のものづくりや材料利用技術など高度な電動化地域資源と本学の精密計測、解析、AI/IoT技術を融合した「電動化プロジェクト」を推進し世界水準の科学技術拠点をめざします。



組織対組織の連携によって共同研究を推進

茨城大学では、大学と企業・団体等との組織対組織の連携による共同研究のための機能強化を進めています。2021年4月には一般社団法人茨城県経営者協会と連携協定を締結。地域の多様な企業等と直に接する機会が増える中で、人文系・理工系の枠をこえたニーズが顕在化し、総合大学としての強みを活かした共同研究が続々と生まれつつあります。

check!

iRIC

研究・産学官連携機構(iRIC)

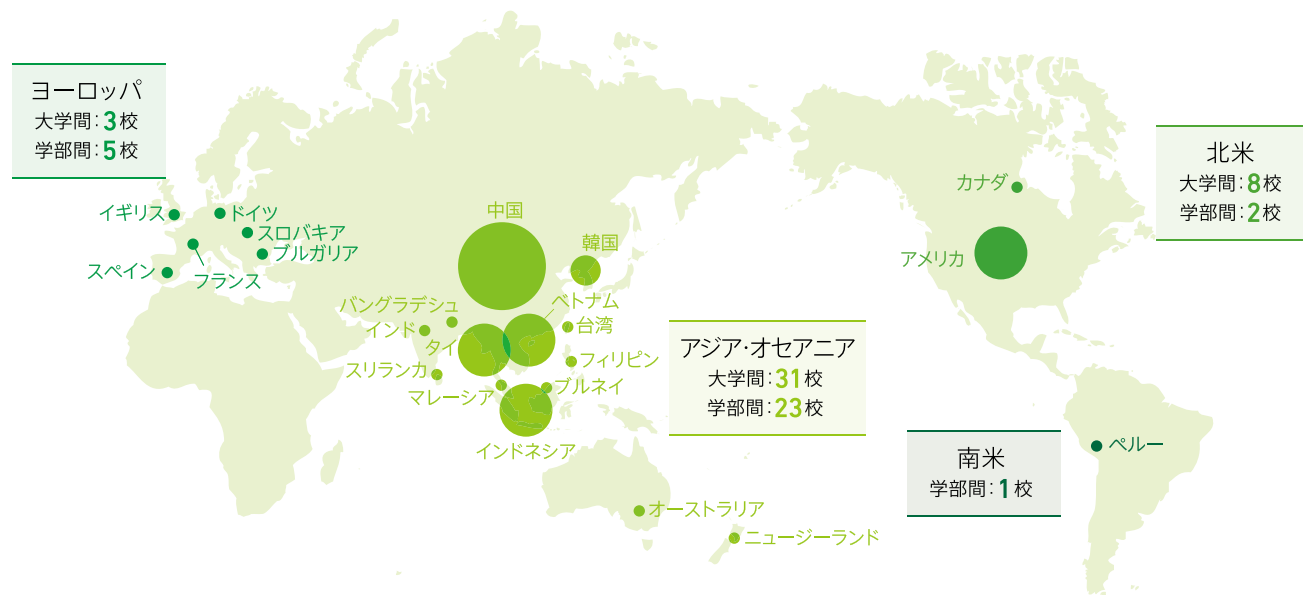
茨城大学の研究体制を司る組織として2018年に開設。産学官連携部門、学術研究部門、研究コンプライアンス部門の3つの部門からなり、研究支援や産学官連携のコーディネートに取り組んでいます。教員との共同研究については、機構のWEBサイトから気軽にお問い合わせください。

●TEL/029-228-8835 ●WEB/ <https://www.irik.ibaraki.ac.jp/>

茨城大学のグローバル交流

社会のグローバル化に応える教育・研究の国際化

ー 世界に広がるネットワーク型の国際拠点を構築



茨城大学は海外のさまざまな大学・機関と交流協定を締結しています

社会のグローバル化が急速に進む中、大学教育においても海外での学びの機会の拡充や高いコミュニケーション力の育成が不可欠になっています。また、茨城大学が国際的な強みとする研究・教育の取り組みも積極的に世界へ発信し、多様な研究者などとの交流につなげていくことが肝要です。

茨城大学では、海外23の国・地域に位置する73機関と交流協定を締結して、ネットワーク型の国際拠点を構築し、交換留学や共同研究を促進することで、グローバル水準の取り組みを推進していきます。

pickup



日越大学(VJU) 気候変動・開発プログラム

日越大学(VJU)は、日本とベトナムの両政府の合意の下、両国の複数の大学が参加・協力して設立した大学(大学院サステナビリティ学研究科)です。茨城大学は、2018年9月に開講した修士課程の気候変動・開発プログラムの幹事校として、カリキュラム設計、シラバスの整備、海外研修の受け入れなどを担当しています。



AIMS(Asian国際学生交流事業)プログラム

AIMS(Asian International Mobility for Students)プログラムは、マレーシア、インドネシア、タイの各国政府共同による学生交流支援事業を起源としたアジア発の国際共同教育プログラムです。その後ベトナム、フィリピン、ブルネイ、日本(茨城大学を含む11大学)が加わりました。本学では農学部や理学部で学生の交流を行っています。



留学生の支援

地域の大学や国際交流団体等と連携しながら、外国人留学生に対する日本語・日本事情教育、修学・生活上の指導助言を行っています。学生によるチューター活動も活発です。各キャンパスには国際交流会館を設け、留学生本人や家族の居宅として提供するとともに、学生同士の交流を図っています。

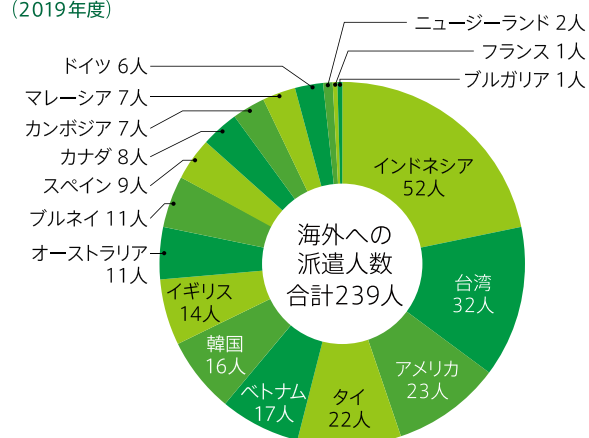


グローバルな学びをサポート

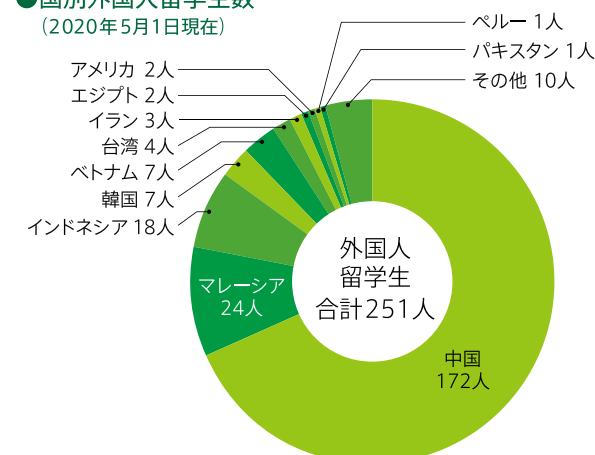
交換留学やオンラインでの交流のコーディネートを通じて、国境を越えた学びをサポートしています。

また、学部生や大学院生が語学研修や国際学会での発表に挑戦することを後押しするため、「茨城大学海外派遣学生旅費支援金」「茨城大学大学院生国際会議挑戦プロジェクト」などの経済面の支援も行っています。

●国別海外への派遣人数 (2019年度)



●国別外国人留学生数 (2020年5月1日現在)



※2020年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響により派遣人数・外国人留学生ともに大幅に減少しているため、参考として2019年度のデータを掲載しています。最新のデータについては「茨城大学データブック2021」をご参照ください。

COVID-19に向き合いながら続ける国境を越えた交流と学び

交換留学生の出身地域が多くなり、留学・海外研修に挑戦する学生も順調に増えてきた中でのCOVID-19の拡大。2020年度、グローバル教育センターでは、「こんな時だからこそつながろう!茨城大学国際交流プロジェクト2020」と題して、おにぎりや折り紙などの日本文化に触れたり、一緒に映画を観て議論をしたりするオンライン交流イベントを企画しました。また、協定校とのオンラインでの交換留学プログラムも拡充しつつあります。国境を越えた交流と学びのチャンネルは今後も多様化していきそうです。



check!



グローバル教育センター

グローバル教育センターでは、茨城大学の留学生の教育・生活支援と、海外留学を希望する学生に対する情報提供・助言を行っています。ひらかれたセンターとして、交流イベントや相談事業も積極的に展開しています。留学や国際交流に興味がある学生はいつでもお越しください。

●TEL/029-228-8593 ●WEB/ <http://cge.lae.ibaraki.ac.jp/>
●MAP/ P.21 水戸キャンパス 共通教育棟

就職状況

多くの卒業生が専門分野を活かして
社会で活躍しています

学部別・業種別進路状況（2021年5月1日現在）

●学部卒業者													●大学院研究科修了者など※																
区分	人文学部		人文社会科学部		教育学部		理学部		工学部		農学部		合計	人文学研究科		教育学研究科		理工学研究科				農学研究科		合計	合計				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		男	女	計		
進学	0	0	8	10	17	12	83	23	317	26	25	15	536	1	0	0	0	18	2	0	0	0	0	21	469	88	557		
公務員	0	2	38	24	11	14	7	3	13	1	8	15	136	1	2	1	3	2	0	1	0	3	3	16	85	67	152		
教員	0	0	4	1	50	104	1	2	0	0	2	0	164	0	0	21	12	1	0	0	0	0	0	34	79	119	198		
農業・林業	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	5	4	12	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	9	5	14		
漁業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
鉱業・採石業・砂利採取業	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1		
建設業	1	0	4	7	0	0	0	0	12	3	3	0	30	0	0	0	0	25	3	0	0	0	0	28	45	13	58		
製造業	1	0	4	16	2	1	2	7	48	12	8	21	122	0	0	0	0	159	14	3	1	5	3	185	232	75	307		
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0	0	1	1	0	0	0	5	2	0	1	10	0	0	0	0	9	1	0	0	0	0	10	15	5	20		
情報通信業	2	0	15	41	4	6	20	8	45	9	2	6	158	1	1	1	0	62	6	2	0	1	0	74	155	77	232		
運輸業・郵便業	0	0	3	5	0	1	0	1	3	0	1	3	17	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	8	15	10	25		
卸売業・小売業	0	1	8	23	1	7	2	3	6	0	7	8	66	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	3	25	44	69		
金融業・保険業	2	0	14	20	1	2	2	2	3	2	1	1	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	27	50		
不動産業・物品賃貸業	0	0	1	10	1	2	1	1	0	0	1	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	13	17		
サービス業	3	3	19	32	6	19	12	3	8	4	2	11	122	2	4	1	1	30	10	7	1	4	3	63	94	91	185		
医療・福祉	1	0	3	14	0	2	0	1	1	0	0	2	24	0	0	1	3	1	1	0	0	0	1	7	7	24	31		
その他の産業	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	3	0	3		
その他	8	4	6	8	2	5	9	5	17	3	1	2	70	0	7	0	2	6	4	5	0	2	4	30	56	44	100		
合計(男女別)	19	10	128	213	96	175	140	59	479	62	66	89	1536	5	15	25	22	322	41	20	2	17	14	483	1317	702	2019		
合計(学部別)	29		341		271		199		541		155		1536	20		47		363		22		31		483			2019		

注：※印「大学院研究科修了者など」には、博士後期課程単位取得満期退学者を含む。

就職者数上位の企業等（2021年3月卒業生・修了者）

茨城県小学校教員(72)／茨城県中学校教員(38)／茨城県庁(32)／茨城県高等学校教員(18)／茨城県特別支援学校教員(15)／株式会社茨城計算センター(13)／JAグループ(12)／株式会社常陽銀行(11)／国立研究開発法人日本原子力研究開発機構(11)／株式会社カスミ(11)／茨城県信用組合(9)／茨城県中高一貫校(義務教育学校)教員(8)／株式会社日立産業制御ソリューションズ(8)／株式会社コードム(8)／東日本旅客鉄道株式会社(7)／スズキ株式会社(7)／日立Astemo株式会社(7)／株式会社日立ハイテク(6)／SMC株式会社(6)／東海旅客鉄道株式会社(5)／国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(5)／イオンリテール株式会社(5)／一誠商事株式会社(5)／水戸市役所(4)／土浦市役所(4)／千葉県小学校教員(4)／株式会社日立製作所(4)／株式会社アウトソーシングテクノロジー(4)／株式会社日立システムズ(4)／株式会社アルプス技研(4)／千葉県庁(3)／日立市役所(3)／つくばみらい市役所(3)／鉾田市役所(3)／小美玉市役所(3)／千葉県中学校教員(3)／千葉県高等学校教員(3)／国立大学法人茨城大学(3)／日本年金機構(3)／独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構(3)／株式会社日立パワーソリューションズ(3)／日立グローバルライフソリューションズ株式会社(3)／富士通株式会社(3)／水戸信用金庫(3)／中日本高速道路株式会社(3)／株式会社SUBARU(3)／株式会社E&Eテクノサービス(3)／いすゞ自動車株式会社(3)／デジタルサンプ株式会社(3)／アルプスアルパイン株式会社(3)／茨城セキスイハイム株式会社(3)／株式会社メイトック(3)／株式会社旭物産(3)／日本電気株式会社(3)／凸版印刷株式会社(3)／古河機械金属株式会社(3)／富士ソフト株式会社(3)／工機ホールディングス株式会社(3)

※()は就職者数

check!



キャリアセンター

学生の将来を見据えて、インターンシップや就職支援など、幅広いキャリア支援を行っています。就職相談や求人情報、インターンシップの受付などの窓口です。

(日立キャンパス、阿見キャンパスは学務グループがキャリア相談の窓口となります)

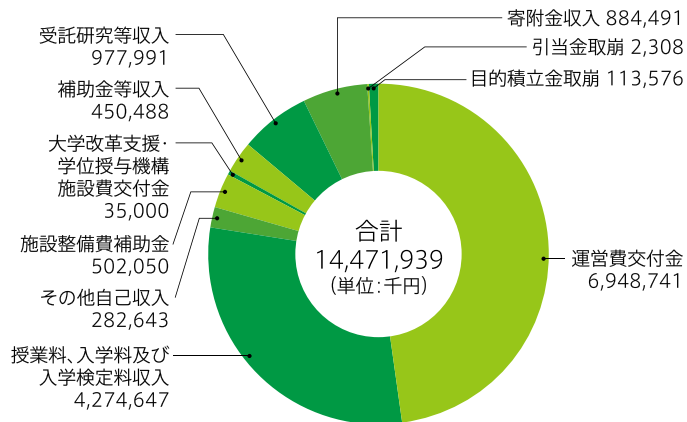
- TEL／029-228-8797 ●WEB／<http://career.admb.ibaraki.ac.jp/>
- MAP／P.21 水戸キャンパス 共通教育棟 1号館東棟1階

大学運営

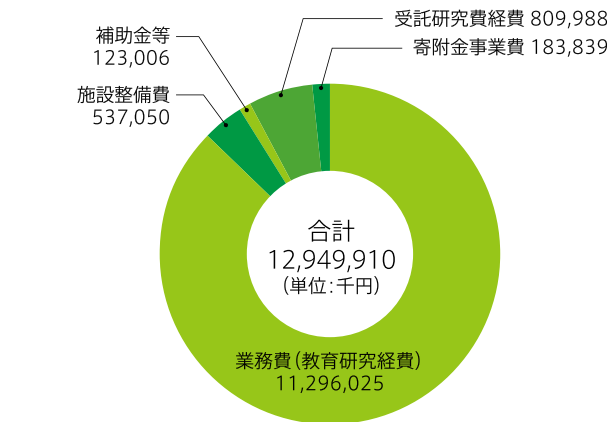
財務改善や教職員が輝く職場づくりを通じて、
持続可能な大学運営をめざします

財務状況 ― 外部資金獲得の取り組みを強化し、自律的な財政運営を図る

●収入(2020年度)

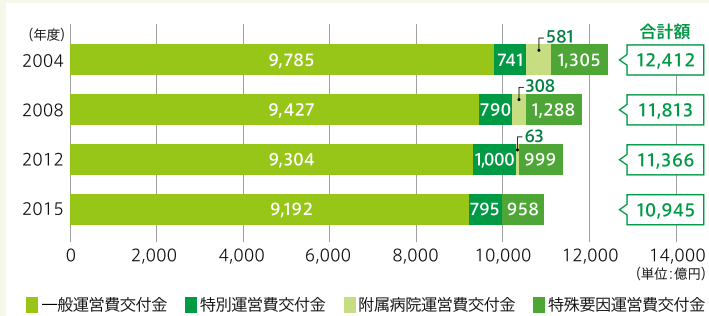


●支出(2020年度)



注：千円未満切り捨てのため、合計が一致しない場合があります。

国から国立大学へ措置される運営費交付金等の予算について、教育・研究活動の基盤となる基幹経費の額は2004年の国立大学法人化以降、大きく減少しています(右図は全国の国立大学法人運営費交付金等の予算の推移)。本学においても、業務効率を高めるとともに、科研費等の研究助成の獲得や共同研究の推進、寄附の拡充など外部資金獲得の取り組みを強化し、自律的な財政運営を図っています。



ダイバーシティの実現と誰もが働きやすい環境づくり

茨城大学ではお互いの個性が尊重されて、学生・教職員それぞれの能力が十分に活かされる、ダイバーシティ環境が整った大学づくりを進めています。仕事と育児・介護の両立、キャリア形成などに関する相談窓口を設置するとともに、女性研究者メンターやライフイベント研究支援員、研究復帰支援、女性エンパワーメント支援などの多様な制度を設けて、誰もが働きやすい環境を整備しています。2019年度には女性のキャリア形成と上位職登用の成果が評価され、「茨城県女性リーダー登用先進企業表彰」で優良賞を、2020年度には女性の活躍促進やワーク・ライフ・バランスを支援する取組等が評価され、水戸市の「男女平等参画社会づくり功労賞」(事業所の部)を受賞しました。



check!



ダイバーシティ推進室

2016年4月に男女共同参画推進室を改称して設置されたダイバーシティ推進室では、女性教職員の増加やワーク・ライフ・バランスの充実などダイバーシティ環境の整備を目標に掲げ、取り組みを進めています。

- TEL／029-228-8237 ●WEB／<https://www.ibaraki.ac.jp/diversity/>

キャンパスマップ 水戸キャンパス

●住所／茨城県水戸市文京 2-1-1
●TEL／029-228-8111 (代)

※新型コロナウイルス感染症の影響により、開館日・時間が変更になっている場合があります。

公衆電話 AED 駐輪場 バイク駐輪場 カフェ・食堂 ATM 銀行 ATM ベビーシート



▲ 来客用駐車場入口

▲ 正門

図書館(本館) ①

茨城大学図書館はどなたも無料でご利用いただけます。図書の貸出を希望する方は、2階カウンターで利用者カードの発行手続きを行ってください。地域の方々と学生がともに学ぶ無料の講座「土曜アカデミー」も開講しています。

●WEB／<http://www.lib.ibaraki.ac.jp/>
●TEL／029-228-8076 (本館サービスグループ)

●開館時間

開講期間中	平日	8:30 ~ 20:45
	土・日	11:00 ~ 19:00
(春・夏・冬) 休講期間	平日	8:30 ~ 17:00
	土・日	休館
祝日 年末年始(12/29 ~ 1/3) 全学一斉休業日		休館



カフェ・食堂・売店

大学生協食堂(福利センター1階・2階) ②

幅広いメニューで栄養バランスのとれた食事を提供しています。
●営業時間／[1階]平日10:00~19:20、土曜11:00~13:30、日曜休業
[2階]平日11:00~13:30、土日休業

大学生協購買・書籍等(福利センター1階・2階) ②

書籍・食品・旅行・パソコンなどを取り扱っています。
●営業時間／[購買]平日8:30~18:15、土曜10:00~14:00、日曜休業
[書籍]平日10:00~17:00、土日休業
[サービス]平日10:00~18:00、土日休業
●TEL／水戸本部 029-225-3384

茨苑会館食堂(学生会館1階) ③

ばんどう太郎グループが運営。2016年には学生との共同企画でリニューアルし、学生考案のメニューも提供しています。
●営業時間／平日9:00~16:00、土日休業
●TEL／茨苑会館食堂 029-232-3456

サザコーヒー 茨城大学ライブラリーカフェ店(図書館1階) ①

喫茶や軽食を提供しています。テイクアウトも可。
●営業時間／平日9:00~18:00、土曜10:00~17:00
●休業日／日曜、年末年始、創立記念日(5/31)、お盆休み

展示室

図書館展示室(図書館1階) ①

年間を通して、本学所蔵資料の企画展示や、教員・学生の研究成果発表、作品展示などを行っています。開館時間は展示により異なります。入場無料。

地球環境資料展示室(理学部G棟1階) ④

理学部が収集した化石や鉱石などの資料を展示しています。
●開室時間／平日8:40~18:00、入場無料

ホール等

ライブラリーホール(図書館3階) ①



講堂 ⑤



社会連携センター ⑥

地域・社会との連携の窓口です。



地球・地域環境共創機構 (GLEC) / 放送大学茨城学習センター ⑦



●電車で越しの方
JR水戸駅北口のバスターミナル7番乗り場から茨城交通バス「茨大行(栄町経由)」に乗車、「茨大前」で下車(約25分)。

●車で越しの方
常磐自動車道水戸ICより国道50号線を水戸駅方面に進み、新原三差路交差点を県道171号線へ。直進し、袴塚1丁目交差点を左折後、袴塚3丁目交差点を右折。一本目の道を左折すると右手に正門が見えます。
※お車の方は守衛所で入構許可証を受け取り、駐車場の案内を受けてください。



来客用駐車場



キャンパスマップ 日立キャンパス

※新型コロナウイルス感染症の影響により、開館日・時間が変更になっている場合があります。

研究・産学官連携機構 (N5棟) ①

企業との共同研究や受託研究の推進拠点です。技術相談や研究内容に関するご質問など、お気軽にお問い合わせください。

研究・産学官連携機構 日立オフィス
●TEL/0294-38-5005
●FAX/0294-38-5240
●E-mail/ccrd-iu@ml.ibaraki.ac.jp



小平記念ホール (N4棟) ②

日立製作所より資金提供を受けて1953(昭和28)年に建立。ホールの名前は日立製作所創業者の小平浪平氏に由来しています。現在は学内・学外を問わず講演会や式典などの会場として活用されています。



大学生協 (E7棟) ③

●営業時間/
[購買書籍]平日9:30~19:20、土日休業
[食堂]平日10:00~19:20、土日休業
●TEL/購買書籍 0294-37-4231
食堂 0294-37-4092



ものづくり教育研究 支援ラボ (S5棟) ④

学生や教員の各種製作などの相談を受け付けているほか、地域の子どもたち向けのワークショップなども開催しています。



図書館 (工学部分館) ⑤

図書館はどなたも無料でご利用いただけます。図書の貸出を希望する方は、1階カウンターで利用者カードの発行手続きを行ってください。

●WEB/http://www.lib.ibaraki.ac.jp/
●TEL/0294-38-5012
(工学部分館サービスグループ)

●開館時間

開講期間中	平日	8:30 ~ 21:45
	土・日	12:00 ~ 17:00
(春・夏・冬) 休講期間	平日	8:30 ~ 17:00
	土・日	休館
祝日 年末年始(12/29 ~ 1/3) 全学一斉休業日		休館



多賀工業会館 ⑥

茨城大学工学部、茨城大学大学院理工学研究科(工学系)ならびに前身組織である多賀高等工業学校等の同窓会「多賀工業会」の事務局です。談話スペースも用意しています。



- 機械システム工学科 : W1、W2、W4、W5、E2、E5
- 電気電子システム工学科 : E3、E5、E6
- 物質科学工学科 : N1、N2、N6、W3
- 情報工学科 : S1
- 都市システム工学科 : S2、S3

- AED
- 駐輪場
- バイク駐輪場
- カフェ・食堂
- ベビーシート



●電車でお越しの方
JR日立駅(中央口)から日立電鉄バス、中央線経由「平和台豊園行」又は「多賀駅行」に乗り、「茨大前」で下車。JR常陸多賀駅から日立電鉄バス、中央線経由「日立駅行3」又は「日立駅行4」に乗り、「茨大前」下車。いずれもバス乗車時間は約10分。

●車でお越しの方
常磐自動車道でお越しの場合は、日立中央ICのご利用が便利です。国道6号線を水戸方面に進むと左折の案内表示板があります。正門の守衛所で入構カードを受け取り、駐車場をご利用ください。

キャンパスマップ 阿見キャンパス

※新型コロナウイルス感染症の影響により、開館日・時間が変更になっている場合があります。

附属国際フィールド農学センター①

農場を活用した総合的なフィールド農学の教育・研究拠点。2018年12月には国際認証GAPを取得。研究管理棟では季節の野菜や果物、切り花の販売も。

- 販売日／月・水・金曜日(祝日を除く)
10:30～11:30、13:30～15:30
- TEL／029-888-8702



- 住所／茨城県稲敷郡阿見町中央 3-21-1
- TEL／029-887-1261(代)



附属国際フィールド農学センター①

図書館(農学部分館)④

図書館はどなたも無料でご利用いただけます。図書の貸出を希望する方は、1階カウンターで利用者カードの発行手続きを行ってください。

- WEB／<http://www.lib.ibaraki.ac.jp/>
- TEL／029-888-8531
(農学部分館サービスグループ)

●開館時間

開講期間中	平日	8:30～20:45
	土・日	11:00～19:00
(春・夏・冬) 休講期間	平日	8:30～17:00
	土・日	休館
祝日 年末年始(12/29～1/3) 全学一斉休業日		休館

国際交流会館⑦

農学部は留学生の割合が最も多い学部です。外国人留学生と外国人研究者用の宿泊室と談話室などを完備しています。



こぶし会館②

1階に大学生協のショップと食堂を備え、近隣の皆様にもご利用いただいています。2階の研修室では市民向けのイベントなども開催。

- 営業時間／
[購買書籍]平日10:00～17:00、
土日休業
[食堂]平日11:30～13:30、土日休業
- TEL／029-887-4312(大学生協)



遺伝子実験施設⑤

組換えDNA実験などの教育・研究のほか、無料の各種実験講座なども開催しています。



同窓会館(霞光荘)⑥

調理スペースがあり、懇親や各種会議にも利用されています。本学卒業生も利用可能です。
●TEL／029-888-8510
(農学部会計・管理グループ)



フードイノベーション棟③

食の安全に関する国際標準HACCPの教育や食の6次産業化に係る教育研究の強化を目的に、2019年に新設。教員の研究室、講義室、実験室、インキュベーションラボ、ラーニングコモンズなどを備えています。



●電車でお越しの方
土浦駅(西口)バスターミナル1番乗り場から関東鉄道バス「阿見中央公民館行」に乗り、「茨大前」下車(約20分)。

●車でお越しの方
常磐自動車道でお越しの場合は、桜土浦ICで下り、阿見・土浦方面へお進みください(約15分)。事務棟前に来客用駐車場を用意しています。

東海サテライトキャンパス

世界的な研究施設 J-PARC (大強度陽子加速器施設) に隣接する茨城大学フロンティア応用原子科学研究センターを核とした、新たな教育・研究拠点として2017年に開設。大学院理工学研究科量子線科学専攻の教育・研究活動を展開しています。年1回実施している一般公開には、東海村在住の小中学生などが家族とともに訪れ、最新の研究に触れています。

- 住所／茨城県那珂郡東海村白方162番地1 いばらき量子ビーム研究センター内
- TEL／029-287-7871
- WEB／<http://www.fas.ibaraki.ac.jp/> (フロンティア応用原子科学研究センター)



水戸駅南サテライト

水戸駅南口から徒歩5分。春は桜が満開となる桜川の景色を臨みながら、学修や仕事、イベントなどに柔軟に活用できる場として2020年に開設しました。本学工学部都市システム工学科の研究室の教員・学生がデザインを監修。茨城県産木材をふんだんに使った心地よい空間です。

- 住所／茨城県水戸市桜川2丁目2-35 茨城県産業会館2階
- TEL／029-297-3151



教育学部附属学校園

茨城大学教育学部の附属学校園では、教育学部や教職大学院の教員養成に協力するとともに、教育に関する理論・実践の研究や働き方改革の取り組みの成果を広く発信し、地域の教育力向上に貢献しています。



附属幼稚園
茨城県水戸市三の丸2-6-8
TEL／029-224-3708



附属小学校
茨城県水戸市三の丸2-6-8
TEL／029-221-2043



附属中学校
茨城県水戸市文京1-3-32
TEL／029-221-3379



附属特別支援学校
茨城県ひたちなか市津田1955
TEL／029-274-6711

地域の方にご参加いただけるイベント

※新型コロナウイルス感染症の影響により、中止や内容の変更がございます。



オープンキャンパス
キャンパスを1日開放し、研究室訪問や模擬授業などにより学生生活を体験できるイベント。水戸・日立・阿見の各キャンパスで毎年7～8月の時期に実施しています。

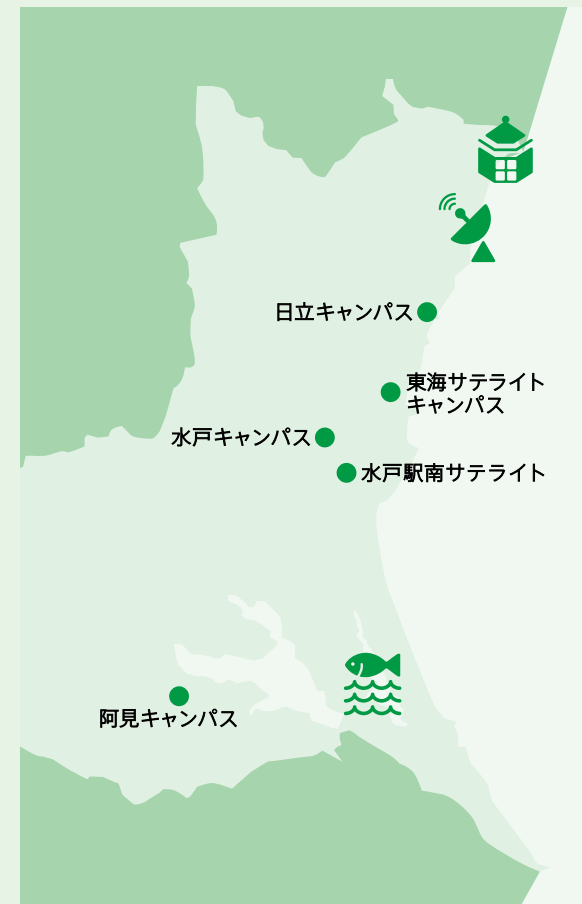


学園祭
水戸の茨苑祭、日立のこうがく祭、阿見の鉤耕祭という各キャンパスの学園祭には、地域の方々も毎年多くご来場いただいています。



土曜アカデミー
茨城大学図書館が開催している、地域住民と学生と一緒に学ぶ無料イベントです。

茨城県内の茨城大学関連施設のご案内



茨城大学五浦美術文化研究所

—岡倉天心の思想をいまに—



六角堂



天心邸(登録有形文化財)

岡倉天心は北茨城五浦の地を気に入り、1906年に日本美術院を移し、横山大観、菱田春草、下村観山、木村武山らとともにこの地で過ごしました。研究所は天心遺跡の管理・公開を行うとともに、その功績をたたえ日本の近代美術や内外の文化・歴史研究に取り組んでいます。

六角堂は2011年3月11日の東日本大震災がもたらした大津波で基部以外すべて流出してしまいましたが、多くの方々の支援により復興。敷地内の天心記念館では、平櫛田中作の「五浦釣人」など貴重な作品を展示しています。

- アクセス／JR常磐線・大津港駅から徒歩約10分
- 入場料／400円(中学生まで無料・団体割引等あり)
- 休館日／原則月曜日(詳細はWEBサイトをご参照ください)
- 住所／茨城県北茨城市大津町五浦727-2
- TEL／0293-46-0766
- WEB／<http://rokkakudo.izura.ibaraki.ac.jp/>



茨城大学理学部附属

宇宙科学教育研究センター

—宇宙の成り立ちを探る巨大アンテナ



日立市と高萩市にまたがった小高い公園内にある、国立天文台の口径32mの宇宙電波望遠鏡2基を使って、宇宙からやってくる電波をとらえています。

- アクセス／JR常磐線・高萩駅からバス利用「明秀学園高萩キャンパス前」から徒歩10分
- 入場料(宇宙電波館)／無料(平日10時～12時、13時～15時)
- 休館日／土・日曜日・年末年始(12/29～1/3)
- 住所／茨城県高萩市石滝627-1
- TEL／0293-24-9516
- WEB／<http://www.asec.ibaraki.ac.jp/>



地球・地域環境共創機構

水圏環境フィールドステーション

—全国随一の臨湖教育施設



北浦を臨む場所に建つ当施設は、全国随一の臨湖共同教育施設としてさまざまな地域の学生などの利用を受け入れ、生態系の観察や水質調査を体験できるプログラムを提供しています。

- アクセス／成田線・延方駅から徒歩約10分、大洗鹿島線・鹿島神宮駅から徒歩約17分
- 住所／茨城県潮来市大生1375
- TEL／0299-95-9650
- WEB／<http://www.cwes.ibaraki.ac.jp/>

キャンパススケジュール

茨城大学の1年間

※新型コロナウイルス感染症の影響により中止や内容の変更がございます。



茨城大学基金 Next Step

ご寄附募集のご案内

茨城大学では、同窓会・地域の皆様、関係企業・団体の方々などから広くご支援をいただく仕組みとして、「茨城大学基金 Next Step」を2015年に創設しました。本冊子でご紹介したように、本学では地域と世界で活躍する人材を育てるための大学改革に取り組んでおり、グローバルに学ぶ交換留学や短期研修も拡充し、学生の成長を支援する環境づくりを進めるとともに、地域に根ざし、持続可能な地域づくりに貢献しています。このような取り組みを一層進める上では、財政基盤の充実が不可欠です。社会の期待に応える大学として成長したいという本学の志をご理解いただき、さらなるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

寄附の種類

個人寄附	法人・団体寄附	古本等の売却による寄附	遺贈・遺言信託による寄附
個人の方を対象に1,000円から任意の金額でご寄附いただけます。	法人や団体、企業を対象に10,000円から任意の金額でご寄附いただけます。	ご不要になった古本やCD・DVD、ゲームソフトなどをVALUE BOOKSで買い取り、その買い取り額をご寄附となります。	遺贈とは、ご自身が築かれてきた財産の一部の受取人に本学を指定することで、ご遺産の一部を本学へご寄附いただくものです。

寄附の使途・支援事業

寄附者の皆様にご支援いただく事業を選択いただき、ご寄附をお願いしております。

支援者	茨城大学基金・取り組み事例	
●個人の方 ●法人・団体の方 ●古本等の売却益 ●遺贈・遺言信託	一般基金	教育・研究活動、社会連携活動など大学の事業計画に基づく支援のほか、寄附者の方のご希望の使途に沿った受け入れも行ってあります。
	修学支援事業基金	・困窮学生への奨学金、授業料の減免措置 ・TA(Teaching Assistant)、RA(Research Assistant)にかかる費用負担等の支援
	研究等支援事業基金	学生やポストク等の若手研究者たちに対する研究支援や研究者としての能力向上を目的とした支援
	附属中学校高度化支援基金	生徒の学習環境の整備、さらなる教育の充実を図るための機器・設備整備への支援
	国際交流・留学生支援基金	学生への国際交流、留学への支援や外国人留学生の学修環境整備、日本での生活全般への支援
ご寄附	図書資料および学習環境事業基金	学生用の図書や雑誌の購入、図書館の環境整備への支援

寄附の申し込み

WEBフォームから	申込書から
茨城大学基金のWEBサイトにアクセスし、お手続きをお願いいたします。クレジットカード決済、銀行振込決済(窓口・インターネットバンキング・ATM)、コンビニ決済(払込票)の払込方法から選び、ご寄附いただけます。 ※郵便局での払い込みはできません。 https://www.ibaraki.ac.jp/fund/	寄附申込書に必要な事項をご記入いただき、郵送またはFAXにて、茨城大学基金・同窓会課までお送りください。寄附申込書は基金のWEBサイトでダウンロードいただくか、茨城大学基金・同窓会課までお問い合わせください。申込書確認後、コンビニ決済用の振込票をお送りいたします。30万円以上のご寄附や銀行振込をご希望の方には、別途ご案内をいたします。

※ご入金確認後、受領証明書を送付いたします。処理の都合上、1～2ヶ月程度かかる場合がございますが、ご了承ください。受領証明書は税制上の優遇措置を受けるために必要な書類ですので、大切に保管してください。

茨城大学総務部基金・同窓会課

〒310-8512 茨城県水戸市文京 2-1-1
 ●TEL／029-228-8781 ●FAX／029-228-8249 ●E-mail／kikin@ml.ibaraki.ac.jp ●WEB／<https://www.ibaraki.ac.jp/fund/>